

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-66

学校名・団体名	三重県海外子女教育国際理解教育研究協議会
HPアドレス	http://mie-int.com/
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	多文化共生の時代を切り拓く児童生徒の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>① 各研究大会への参加・参画を通して、会員の意識・意欲の向上を図り、在外教育施設派遣教員志望者の裾野を拡大する。</p> <p>② 三海研組織と研究活動について、小中学校及び教育機関における認知をさらに拡大するとともに、会員・会全体としての研究推進の充実を図り、国際理解教育推進を行う県下唯一の総合研究団体としての地位を確固たるものにする。</p> <p>③ 県市町教育委員会及び関係諸団体、東海他県組織との連携を強化し、県内国際理解教育推進への寄与を行い、併せて次世代会員の発掘と育成を図る。</p>	

1 はじめに

本研究協議会は、在外教育施設派遣教員経験者や派遣希望者を中心に組織され、約30年間県内小中学校における国際理解教育の推進のための諸活動を後述のように進めてきている。

(1) 全国海外子女教育国際理解教育研究協議会(略称:全海研)の方針に沿った、各研究領域における研究推進

①海外子女教育に係る実践研究(在外教育施設における実践報告、帰国報告)

②教科・領域等における海外子女教育、国際理解教育に係る実践研究

③小学校外国語活動、中学校外国語に係る実践研究

④外国人及び帰国児童生徒教育に係る実践研究

(2) 年1回の県研究大会の実施、全国大会、東海ブロック大会への参画・参加(一般参加、実践報告)等

(3) 研究収録兼会報「懸け橋」の作成、発行(平成28年度:第27号発行)

(4) 広報活動(会員間の情報や教育実践・意識の共有化、HPの更新、会報・機関紙の発行)

(5) 次世代育成(在外教育施設派遣を志す若手教育の発掘と育成、帰国後の活用)

(6) 連携強化(全海研、東海各県、県市町教委、関係教育諸団体との連携)

(7) 在外教育施設派遣者への支援

上記を踏まえ、平成30年度に全海研東海ブロック大会を三重県で開催することが決定し、それを今後の中期的な目標に位置づけながら今年度の活動を推進している。

2 今年度の活動について

(1) 第1回役員会開催 5月18日(土) 津市立修成小学校会議室 (参加者18名)

・三重県研究大会兼帰国報告会の内容について協議、検討。

(2) 県研究大会兼帰国報告会開催 6月25日(土) 三重県教育文化会館第2会議室 (参加者40名)

・平成27年度末在外教育施設派遣終了者による帰国報告

アブダビ日本人学校 小川 雅弘 前校長 他3名

(3) 第43回全海研・全国大会(兵庫大会)に参加 8月5日(金)~7日(日)

JICA神戸(本会からの参加者8名)

・全国代表者会、研究部長会、ICT担当者会への出席及び文部科学省担当幹部職員講話

・開会行事、実践事例発表会、テーマ別分科会、トーキングテーブルに参加

(4) 三重県総合教育センター主催夏季研修講座の担当 8月8日(月)10:00~12:00 三重県松阪庁舎

・「海外で学ぶ子どもたちと在外教育施設」マドリッド日本人学校前校長 川村 武弘

・「サウジアラビア・ジェッダと志摩・立神~水の恵みを感じて~」ジッダ日本人学校元教諭 熊崎 泰

(5) 第2回役員会兼東海ブロック研究大会事前研修会開催 10月29日(土)18:00~20:30

三重県教育文化会館第4会議室 (参加者22名)

・実践研究発表の事前発表と内容への指導助言

「よりよい外国人生徒の指導のあり方を求めて」提案者:四日市市立中部中学校 森井太郎教諭

「Skypeを活用したオーストラリアとの国際交流実践」提案者:津市教育委員会教育支援課 森 雅也指導主事

助言者:椋山女学園大学 宇土 泰寛 教授(教育学部長)

(6) 第9回東海ブロック国際理解教育研究大会(静岡大会)に参加 11月5日(土) 浜松学院大学

(本会からの発表者2名、その他の参加者10名)

・開会行事、講演会、分科会に参加

講演:「学習指導要領改訂と、これからの英語教育」講師:横浜国立大学 高木 展郎 名誉教授

分科会:本会からは、前述の中部中学校:森井教諭、津市教育委員会の森指導主事が発表

(7) 第3回役員会開催 1月28日(土) 津市立修成小学校会議室 (参加者14名)

・平成28年度総括研修会及び在外教育施設派遣教員壮行会の内容検討

(8) 平成28年度総括研修会及び在外教育施設派遣教員壮行会開催

3月4日(土) プラザ洞津 (参加者54名)

・三重県教育委員会 加藤圭剛 市町教育支援・人事監 臨席

・教員、児童生徒に多文化共生の輪を広げる手立てや動機付けについての研究協議

・平成29年度当初在外教育施設派遣予定者7名を交えた交流会、来賓からの激励のことば

・総括研修演題「水問題解決のための大陸間教育プロジェクト(~学びと表現がつなぐ大陸間ミュージカル広場の活動を通して~)」講師:椋山女学園大学 宇土 泰寛 教授

3 成果と今後に向けて

例年の実践を踏まえ経験や識見の豊富な講師や専門性の高い講師を招聘することで、従来の研究活動と比較して更なる質の向上が可能となり、県研究大会や東海ブロック研究大会における内容充実を図ることができた。また、例年、自己資金により参加していた全国海外子女教育国際理解教育研究協議会全国大会及び東海ブロック大会について、旅費助成によって多数の会員参加ができ、充実した先進的な研究にふれることで、本研究協議会の研究内容の向上につながっている。

今年度の成果を大きな基盤とし、明年(平成30年)11月に開催予定の全海研東海ブロック大会(三重大会)成功に向けた活動の充実を図っていきたい。